

キーワード：考える力、総合的な学習の時間、外部関係機関との連携、土砂災害

## I 研究について

### 1 はじめに

本校がある鮫川村は福島県の南部に位置し、阿武隈高原南部の高地にあるため、村の大部分は標高400mから650mにある。また、全体の約60%が山林で構成されており、大雨や地震による土砂災害が大きな課題である。

本校の児童の約90%はスクールバスで登校しており、村内における自然災害の危険性や防災教育の必要性に気づいているとは言えない。また、生活科や総合的な学習の時間で地域の自然の特徴、自分たちの生活との関わりなどを学習する単元は設けているが、防災教育との関連性は薄い。

そこで、さまざまな関係機関との連携を図りながら、自分たちが生活している地域の自然災害等の現状や減災を理解し、適切な思考・判断に基づく行動を考え、実行できる力を身につけさせるために継続して実践を行ってきた。

### 2 実践の概要

#### (1) 防災教育全体計画

鮫川小学校防災教育指導目標		
低学年	中学年	高学年
<p>すぎすぎさがわ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校や校区内にある安全な施設についての理解</li> <li>友達と仲良く行動できる態度</li> <li>防災への関心、きまりの大切さ</li> </ul>	<p>調べようわたしたちのさがわ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鮫川村の土地や気候、自分たちのくらしを守ってくれる人や施設についての理解</li> <li>命の大切さについて考え、支えてくれる人々への感謝の心</li> </ul>	<p>災害に強くなろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害が起こる原因についての理解</li> <li>災害が起きたときの主体的な行動</li> </ul>
<p>【学級活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や学習への適応及び健康や安全に関する指導の充実を図る。</li> </ul> <p>【児童会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>係や委員会活動の充実を図る。</li> <li>学校生活の充実と向上のために諸問題を話し合い、協力してその解決を図る。</li> </ul> <p>【学校行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全な行動や規律ある集団行動の体得、責任感や連帯感の涵養を図る。</li> <li>集団生活の在り方や公衆道徳などの望ましい体験を充実する。</li> <li>勤労生産、奉仕的行事における勤労生産体験やボランティア活動などを充実する。</li> <li>自分の命について常に関心を持ち、非常事態発生の場合に、直ちに即応できる技能や態度を養う。</li> <li>避難訓練を通して、冷静・沉着に行動することができるようにする。</li> <li>的確な判断力を養うとともに、互いに協力することの必要性を理解させる。</li> </ul>	<p>【総合的な学習の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。</li> <li>ボランティア活動などの社会体験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動などの体験的な学習を充実する。</li> <li>地域理解に関する体験的な学習を通して、実感的に防災意識を高める。</li> </ul> <p>◎関連活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鮫川の川・水・魚</li> <li>鮫川の森林・木・植物</li> <li>鮫川の食と農</li> <li>鮫川の文化と未来</li> </ul>	<p>【全教科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の関連内容を踏まえて防災意識の高揚を図る。</li> <li>分かる、できる、楽しい授業を展開する。</li> <li>各教科のねらいに即した基礎・基本を確実に身につける。</li> </ul> <p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現力の育成、豊かな感性を育成する。</li> </ul> <p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会の一員としての自覚を持つ。地域社会の一員としての自覚をもつ。基礎資料を効果的に活用し調べたことを表現する力を育てる。</li> </ul> <p>【生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心愛着をもち、集団や社会の一員としての自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動する。</li> </ul> <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気象現象や流水の働きや規則性についての見方や考え方を養う。</li> </ul> <p>【道徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人間尊重の精神と生命に関する畏敬の念を養う。</li> <li>希望や勇気、努力と強い意志など豊かな心を育む。</li> <li>自然体験活動やボランティア活動等とお互いに思いやりの心や協同的な態度を育て、よりよく生きていく道徳的実践力を育成する。</li> </ul>
<p>豊かな体験活動      地域とのかかわり      人とのかかわり      自然とのかかわり</p>		

(2) 実践の経過

① 校内での実践

	時 期	実施内容	ご協力いただいた関係機関等
実践1	6月6日(木)	○防災教育出前講座 (4年)	・棚倉土木事務所 ・砂防ボランティア協会
実践2	6月7日(金)	○土砂災害を想定した避難訓練(全学年)	・棚倉消防署鮫川分署
実践3	7月6日(土)	○保護者と共に行う防災教育 ・道徳科授業(5年) ・引き渡し訓練(全学年)	・保護者
実践4	7月16日(火)	○青少年赤十字防災教育プログラムによる防災教室(5年)	・日本赤十字社福島県支部 ・県南地区青少年赤十字賛助奉仕団
実践5	7月18日(木)	○東北大学減災教育「結」プロジェクト出前授業(5年)	・東北大学災害科学国際研究所
実践6	11月1日(金)	○2019 防災教室 in さめがわ(全学年)	・棚倉消防署鮫川分署 ・日本赤十字社福島県支部 ・県南地区青少年赤十字賛助奉仕団 ・鮫川村赤十字奉仕団 ・鮫川村社会福祉協議会 ・鮫川小学校PTA

② 公開授業研究会での実践等

	時 期	実施内容	ご協力いただいた関係機関等
実践7	9月30日(月)	○授業公開(4年) (総合的な学習の時間) 〈鮫川の森林・木・植物〉	・福島県もりの案内人 齋須 寛一さん

## II 研究の実際について

### 1 校内での実践

#### 実践1 【防災教育出前講座】

##### (1) ねらい

- 地震や局地的大雨による土砂災害の状況や危険性を理解し、避難の仕方や日頃の備えについて学習をする。

##### (2) 主な内容

- 自然災害の種類や備えについてのスライド説明
  - ・ 自然災害の種類
  - ・ 土砂災害の種類と身を守るための備え  
(土石流発生メカニズム、土砂災害から身を守るための備え)
- 土石流模型体験



自然災害についての説明



砂防ボランティア協会の方による土石流模型実験

##### (3) 振り返り

- 土木事務所や砂防ボランティアの方々の専門的な知識を活用し、土砂災害時に起きやすい土石流の危険性やそれから身を守る方法などについて学習を行った。特に、土石流の模型を活用しての説明や実体験により、土石流の発生の仕方などのメカニズムやその危険性を具体的に理解することができた。
- 土石流を防ぐために、学校や家の周りにも砂防壁などがあることに気づき、村や国の「公助」の役割にも関心をもつことができた。



学校周辺の砂防壁

#### 実践2 【土砂災害を想定した避難訓練】

##### (1) ねらい

- 学校の裏山が崩れ、土砂災害が起きたことを想定して、避難の仕方などを確認する。

##### (2) 主な内容

- 大雨による裏山の崖が崩れる土砂災害が発生
- 土砂災害発生箇所から最も離れている教室（音楽室）への避難



避難の様子

### (3) 振り返り

- 「これまで、地域の実態に応じた避難訓練を行っていたのだろうか。」という基本に立ち返り、本地区の災害として起きやすい「土砂災害」を想定して実施した。土砂災害は、地震発生の場合と大雨による場合では避難経路や避難場所が異なるので、当日の天候で判断することとした。職員の緊張感もあり、臨機応変に対応する重要性を感じた。



避難訓練の全体指導の様子

## 実践3 【保護者と共に行う防災教育】

〈授業参観における道徳科授業〉

### (1) ねらい

- 東日本大震災で被害を受けた水族館「アクアマリンふくしま」の職員の生き方や考え方を通して、より高い目標を立て、困難や失敗にもくじけることなく、常に希望をもって、理想に向かって前進しようとする気持ちを育む。

### (2) 主な内容

- ① これまでに経験した困難な出来事を振り返り、学習課題をつかむ。
- ② 「きぼうの水族館～アクアマリンふくしま～」を読んで考え、話し合う。
- ③ 今後の自分の生活と関連づけて考える。



震災当時の映像

### (3) 振り返り

- 震災当時の被災した状況や事実について知識が浅く、ほとんど記憶に無い世代の児童にとって、震災の教訓を風化させないためにも本資料を扱う意義は大きかった。また、児童にとって身近な水族館での出来事と道徳的価値（希望と勇気、努力と強い意志）を関連づけながら考えを深めることができた。

〈引き渡し訓練〉

### (1) ねらい

- 児童及び保護者の危機管理意識を高め、非常事態発生の場合に、直ちに即応できる技能や態度を養う。

### (2) 主な内容

- 児童引き渡しカードを活用し、児童を確実に引き取り人へ引き渡す。

### (3) 振り返り

- 引き渡しの方法を円滑に行うための環境（会場図の配置や職員の役割等）の重要性を感じた。

保護者への児童引き渡しカード				
方 部 名		スクールバス	号車	
年	ふりがな 児 童 名			
年	ふりがな 児 童 名			
年	ふりがな 児 童 名			
引 渡 し 場 所	引 取 り 人 の 名 前	続 柄	引 渡 し 日 時	
学 校			月 日	時 分
		学 校 責 任 者		

#### 実践4 【青少年赤十字防災教育プログラムによる防災教室】

##### (1) ねらい

- 日本赤十字社福島県支部による「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用した防災教室を実施し、非常時に必要なコミュニケーション力を高める。

##### (2) 主な内容

- BCW（防災コミュニケーションワークショップ）
  - ・ワークショップ「竹ひごタワー」づくり  
4～5名がチームとなり、限られたアイテム（竹ひご、マスキングテープ、紙ねんど）のみを使って、制限時間内にタワーを作り、机から紙ねんどのてっぺんまでの位置の距離の長さを競う。

〈大切な振り返り〉※「まもるいのち ひろめるぼうさい（日本赤十字社）」より

- ・コミュニケーションスキル
- ・状況認識
- ・リーダーシップ（チーム作り）
- ・問題解決
- ・タスク（役割）配分



竹ひごタワーづくりの様子



##### (3) 振り返り

- 限られた材料を用いて短時間で1つのものを作る活動は、意見を出し合って協力する必然性があり、コミュニケーションスキルを高める活動として効果的だった。
- 防災と竹ひごタワーの関連を理解できていない児童がいたように感じるので、実際に災害が起きた場合、その場面でどのような力が求められるのかを子どもたちに理解させておく必要があった。

#### 実践5 【東北大学減災教育「結」プロジェクト出前授業】

##### (1) ねらい

- 防災や減災についての理解を深める。

##### (2) 主な内容

- 災害のメカニズムについて学習する。
- 防災・減災スタンプラリーを行い、緊急時の意識を把握する。



防災・減災スタンプラリー



防災・減災スタンプラリーの様子

### (3) 振り返り

- 災害時にどのような行動をすればよいのか、グループで話し合っただけで考えることができた。
- スタンプの内容が、どれを選んでも減災につながるものであったため、グループ内でも様々な解答が生まれ、人それぞれに考えが異なることを実感することができた。
- 山間部に位置する鮫川で起こりやすい災害について、映像教材を用いて説明していただいたので、子どもたちの理解が深まった。



減災ハンカチ「結」

## 実践6 【2019 防災教室 in さめがわ】

### (1) ねらい

- 災害や自分の命の安全について常に関心を持ち、非常事態に備える心構えやコミュニケーション力を養う。
- 避難訓練、炊き出し訓練、防災教育プログラムを通して、冷静な判断、迅速な行動、協力し合うことの大切さを理解させる。

### (2) 主な内容

#### ア 避難訓練

- ・地震が発生し、火災が起きたことを想定し、避難する。
- ・水消火器を用いての消火訓練を行う。



避難訓練の様子

## イ 炊き出し訓練

- ・「ハイゼックス炊飯」の体験をする。ハイゼックス袋に無洗米と水を入れ、ゴムで止めて温める。
- ・40分ほどでできたご飯に、温めたレトルトカレーをかけて食べる。非常時でも簡単にできる。鮫川村赤十字奉仕団の協力が欠かせなかった。



炊き出し訓練の様子



## ウ BCW (防災コミュニケーションワークショップ)

- ・ワークショップ「ぼうさい まちがいさがし きけんはっけん！」(1年)  
災害時の危険(場所・行動)について伝え、自分の身を守るための基礎的な知識や判断力を身につける。



- 災害が起きると自分の住んでいるところはどうか。先生の指示に従うこと。  
地震が起きたとき、教室の中で倒れてくるもの、動いてくるもの、落ちてくるものはないかなど挿絵を活用して具体的なお話をいただいた。子どもたちは、楽しみながら安全な生活への意識を高めることができた。
- ・ワークショップ「いえまですごろく」(2・3年)  
災害時のシチュエーションを疑似体験し、防災の知識を身につける。



災害がおきたらどうするかを考える「いえまですごろく」をやりました。災害がおきたときにどうすればいいのかがわかりました。災害がおきたときに一人だったとしても、今日みんなで行ったすごろくを思い出して動きたいです。

- 「いえまですごろく」を複数人で体験することで、一人では気がつかなかった安全に対する意識をもつことができた。また、火事や地震などの災害の危険性や起きた後の行動の仕方も知ることができた。

・ワークショップ「自分だったらどうする」(4・5・6年)

実際にあった災害事例をもとに、災害という状況の中で、判断・選択しなければならぬ体験を通して、考える力、想像する力を養う。



- 具体的な場面についてグループごとに考える中で、友達の考えのよさに気づいたり、自分ならどうするか改めて考えたりするよい機会となった。

(3) 振り返り

- これまで単独で行っていた避難訓練に、炊き出し訓練や防災プログラムを組み合わせることにより、これまで以上に防災に対する意欲の向上を図ることができた。
- 村の消防署員や赤十字奉仕団の方々、さらに保護者にも協力をいただくことで、学校、家庭、地域が一体となった活動となり、地域に開かれた学校づくりの推進につながった。
- WBC(防災コミュニケーションワークショップ)を通じて、身を守るための基礎的な知識を身につけるとともに、災害時におけるコミュニケーションの大切さについても子どもたちなりに理解することができていた。
- 複数の団体と同時に連絡を取らなければならない、連携が煩雑になり計画の立案に遅れが出てしまった。事前に打合せの場を設定し、共通理解をすることの必要性を感じた。

2 公開授業研究会での実践等

**実践7** 公開授業：総合的な学習の時間〈鮫川の森林・木・植物〉

(1) ねらい

- これまでの森林学習を生かして、学校周辺で土砂災害が発生しそうな場所を予測し、土砂災害から身を守る行動について考え、話し合う。

(2) 主な内容

① 学校周辺の土砂崩れの危険予想

T：学校の周りの危なそうところを見て歩いたよね。

どんなところを写真にとったのかな。

C：崩れそうところですよ。

T：それは、どんなところだったかな？

C：(斜面が)急なところですよ。

C：特に、人が削ってしまったところですよ。

C：木が切られてしまったところですよ。



C：木が少ないところですよ。

C：杉林のところ。根っこが浅いからかな。

② 鮫川村防災ハザードマップの確認

T：みんなこれ見て（テレビの大画面で）

C：うわ、同じだ！

C：予想したところと大体同じ！

C：すごい！

T：みんなは、これまでの勉強や見学で、自分で危険なところを予測できるようになったんだよ。



③ 自分の身を守るための行動や心構え

T：身を守るために、どのようなことをすればいいだろうか。

心構え C：避難場所を確認しておきます。

C：いつ何が起こるか分からないから、持ち物を準備しておきます。

C：家族と話し合っておきます。

C：家の周りの危なそうな場所を確認しておきます。

行動 C：大雨の時には氾濫や土砂災害に注意します。

C：山の斜面から離れた部屋でねます。

（家の中の安全な場所で）

C：親と一緒に寝るようにします。

C：防災無線をしっかり聞きます。

C：親と相談して避難します。大雨の時には特に注意します。



(3) 振り返り

○ 総合的な学習の時間の中で、「鮫川の森林・木・植物」というテーマ学習を30時間設定してきた。源流体験、森林での散策等の体験を通して、森林のよさにふれるとともに、土砂くずれ等の災害についても学習を行ってきた。特に、今年度は大雨による被害も多く、土砂災害の箇所も多かったため、身近な問題として意識が高まっていた。

● 導入においてハザードマップと自分たちで撮影した写真を組み合わせることで、子どもたちの理解がより深まっていた。しかし、身を守るためには、どんなことを考え行動すればよいかという点については、子ども一人一人の状況や環境が異なるので難しい。方部ごとに話し合うことや時系列で整理するなどさらに工夫が必要である。

〈児童の感想から〉

○ 私はふだんは、何もしないで歩いたり、土砂災害のことを気にしたりしていませんので、この学習をやってよく考えようと思います。

○ ハザードマップを読んだり、みんなと勉強して、どうやって行動すればいいかも分かってきたし、なるべく大人の人と行動して、ひなんする場所や注意することなどを話し合いたいと思いました。

講話：福島県もりの案内人 齋須 寛一 様

「鮫川村の自然環境と防災教育について」

〈講話の概要〉

- 鮫川村の豊かな自然、鮫川村の災害、赤十字奉仕団としての防災に関する活動等をご講話いただき、豊かな自然のよさや災害への備えについて研修を深めた。
  - ① 鮫川村の豊かな自然
    - ・澄んだ空気の際は富士山まで見える朝日山、山頂の山ツツジ、
    - ・森に住むフクロウやハコネサンショウウオ など
  - ② 鮫川村の災害
    - ・冷害、豪雪、林野火災等
  - ③ 赤十字奉仕団としての活動から
    - ・幼いうちから体験を積ませる。(防災体験施設の活用、防災伝言ダイヤル等)
    - ・家族で話し合う。(被災時にできること、避難場所、避難ルート等)
    - ・体験を行動に移す。(マップ作り、地域住民との交流、防災訓練への参加等)



講話の様子

### Ⅲ 成果と課題について

#### 1 成果

- これまでも防災教育を行事や各教科、総合的な学習の時間等で計画的に実施してきたが、主体的な判断力や行動力につながっていたのかどうか、地域との連携は充実していたのかどうか見つけ直すことにより、改善を加えることができた。総合的な学習の時間で森林を学習する中で防災についても考える時間を設定したり、地域や関係機関とともに炊き出し訓練やBCWに取り組むことで、これまでの学習が統合された形となり、防災に関する知識や理解をより深めるとともに、主体的に考えたり、判断力や行動力を育んだりすることができた。
- 近年、頻発する自然災害の多さから、防災教育の意義は年々重要になっている。今回の防災教育の取り組みを通して、学校が地域の防災に担う役割の大きさを改めて認識することができた。今後も、さまざまな自然災害を想定した取り組みを行うとともに、地域と学校が協働して児童の命を守る取り組みを継続していくことが大切である。
- 学習を通して学んだことを地域や家庭の生活の中で生かしていくことが重要である。今後も、防災教育に関する活動に地域や保護者と共に取り組んでいくとともに、学校の取り組みを積極的に発信していきたい。継続していくことで、自分で考え、自分で判断し、身を守る行動がとれる児童の育成が実現すると考える。